



# アジア経済交流センターとしての再出発

アジア経済交流センター長 鎌田 慶昭

## 1. 新たなスタート

今年度より、私共の組織名称が「環日本海経済交流センター」から、「アジア経済交流センター」に変更された。これまで中国をはじめとする環日本海地域の国々と積み重ねてきた経済交流の輪を、今後は更に拡大してアジア全体に拡げようというねらいである。

「アジア」を標榜する以上、東南アジア、西アジア等が加わり、広大な守備範囲となる訳だが、1年目の今年度は、近年再び注目が高まり始めているアセアン諸国の情報発信、交流促進に努めている。

## 2. アセアン概要

アセアンは10の国により形成されているが、「モザイク諸国連盟」と称される通り、各国間で国土面積、人口、経済規模等が大きく異なる。

アセアン地域での事業展開の場合、単に「アセアン」として捉えるのではなく、個々の国ごとに対応を考える必要がある。国や地域でそれぞれ人

種、文化、宗教、趣向、言語、法令が異なり、個別に対応するのは容易ではなく、展開先の絞り込み、商材の選択が必要となるため、手間暇を要し難易度も高い。

しかも、アセアンは全体を合わせても中国一国のスケールに遠く及ばず、発展のスピードは以前の中国よりも遥かに遅い（よく「遅々として進む」などと揶揄される）ことを念頭に置き、急がず、焦らず、諦めず、忍耐強く取り組む覚悟が必要である。

## 3. アセアンとの交流の意義

アセアンはエネルギー資源、鉱物資源をはじめとする天然資源の宝庫であるが、一般的に川中の産業が未成熟である。鉄鉱石は豊富に採取されるが精錬施設が殆ど無い、原油は採れるが製油施設が殆ど無い、といった具合である。

資源を持ちながら、資源以降のバリューチェーンがそっくり抜け、最終の製品組み立て工程で豊富な労働力を有するアセアンに再び戻って来る。

	面積(K㎡)	人口(万人)	名目GDP(億米ドル)	1人当たりGDP(米ドル)	人口密度(人/k㎡)	政体	公用言語	宗教	通貨
ブルネイ	5,765	43	121	28,291	75	立憲君主制	マレー語	イスラム教	ブルネイ・ドル
カンボジア	181,035	1,601	222	1,384	88	立憲君主制	クメール語	仏教	リエル
インドネシア	1,910,931	26,399	10,155	3,847	138	共和制	インドネシア語	イスラム教	ルピア
ラオス	236,800	686	169	2,457	29	人民人種共和制	フオス語	仏教	キップ
マレーシア	330,396	3,162	3,145	9,945	96	立憲君主制	マレー語	イスラム教	リンギ
ミャンマー	676,577	5,337	693	1,299	79	共和制	ミャンマー語	仏教	チャット
フィリピン	300,000	10,492	3,136	2,989	350	立件共和制	フィリピン語・英語	カトリック	ペソ
シンガポール	718	461	3,239	57,714	6,421	立件共和制	英語・中国語	仏教	シンガポール・ドル
タイ	513,120	6,904	4,552	6,594	135	立件君主制	タイ語	仏教	バーツ
ベトナム	330,967	9,554	2,239	2,343	289	社会主義共和制	ベトナム語	仏教	ドン
アセアン全体	4,486,309	64,739	27,671	4,274					

出所：外務省資料、アセアン情報マップ（日本アセアンセンター）

# SPECIAL NEWS

資源は持たぬが技術・ノウハウを有する日本、そして少子高齢化により製造業、サービス業等の現場での労働力確保に悩む日本とは、まさに補完関係にあると言える。

更に、少子高齢化により年々市場が縮小する日本では、販売先を海外に求めざるを得ない。

アセアンは出生率が高く平均年齢が若いのも魅力で、彼等が「豊富な労働力」だけでなく「拡大する消費市場」をも形成し始めているのである。

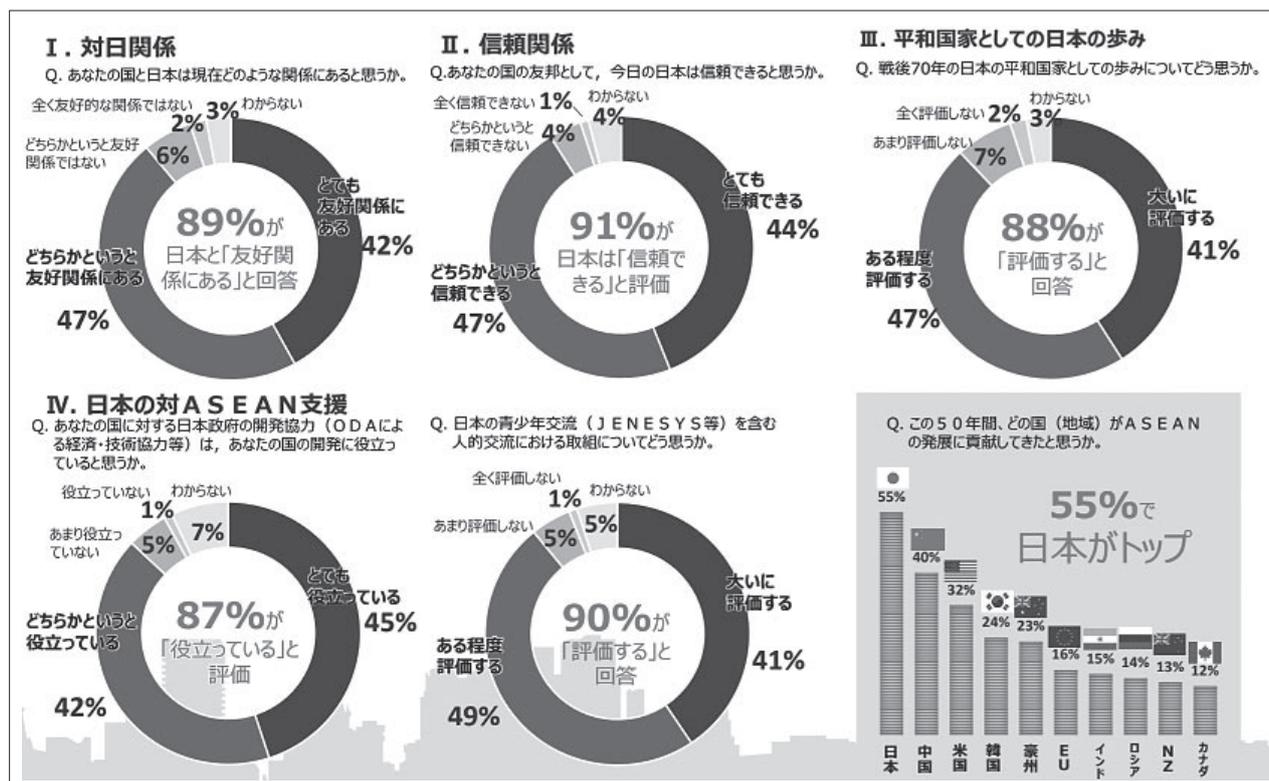
アメリカのトランプ大統領に端を発する「自国第一主義」シンдрームが全世界に拡散している中、資源を持たず、食料自給率が40%を下回る日本は「ジャパン・ファースト」などと言っている場合ではなく、生き残りをかけて世界と向き合っていかなければならない。世界の中でも身近な存

在であるアジア、とりわけ親日国が多く、多様性容認の傾向が強いアセアン諸国との共存共栄は、日本にとって極めて重要である。彼らが描く成長カーブに、日本がどれだけ関与して行けるかがビジネス成功の鍵となろう。

## 4. アセアンから学ぶべきこと

最近の日本はおかしい。何かギスギスしていて息苦しい、と感じるのは私だけではないと思う。完璧さを求め過ぎるのか、多くの人達が（というよりも世間、社会そのものが）常に何かに対してイライラしており、僅かな失敗や失言も許されないという風潮がある。絶対に失敗は許されない、誰かの怒りに触れてはならないという気持ちは、人々からチャレンジ精神を奪い去り、ユニー

参考資料「アセアンの日本に対する信頼」



出所：外務省作成 ASEAN10か国における対日世論調査（平成29年11月）

クな発言をも封じ込めてしまう。

これは、極論すれば日本の国際競争力を削ぐ大きな要因の一つと考えて良い。

そのような状況の中で、私達が失いつつある多様性の容認、寛容の心を思い出させてくれるのがアセアン諸国の人々だと思う。多民族が混在し異文化交流が常態とも言えるアセアン諸国の人々の多くは、自我を通して他人と争うことの無意味さ、愚かさを肌身で知っており、各人が生まれながらにして寛容さを身に付けている。

彼らとの交流を通じ、私達が忘れかけている寛容さを取り戻したいものである。



京都見物をするインドネシアの若者たち。くつつくの無い笑顔に癒される。

## 5. インドネシア雑感

大統領選挙・国政選挙同時投票（4月17日実施）を間近にひかえたインドネシアを2月に訪問した。

大統領選は、現職のジョコ・ウィドド（通称ジョコウィ）と、対立候補のプラボウォの対決で、前回（2014年）と同じ顔触れである。そのせいか、街は以前のような選挙前のお祭り騒ぎは無く、静かである。

ジョコウィは一介の家具商からソロ市長、ジャカルタ市長を経て大統領まで登りつめた庶民派、プラボウォは元国軍幹部エリートであり、全く出

自も個性も異なる2人の勝負は、現時点では、ほぼ互角、いやジョコウィ僅かにリードといったところか。



相変わらず交通ラッシュが続くジャカルタのステイルマン通り。その真下（地下）を走るMRT（都市高速鉄道）は既に開通、3月末本格開業予定。

現地を訪れて最初に感じたことは、遅れていた交通インフラの開発が急ピッチで進められていること。ジャカルタ市内を南北に走るMRT（都市高速鉄道）の建設、市の中心と東部の工業地域（チカラン、カラワン）を結ぶ高速道路の二層化工事、その高速道路に平行して進むLRT（軽量軌道交通）の建設等の進展が目視できた。既存の道路は相変わらずの混雑だが、近い将来の改善が期待できるようになったのは、ジョコウィ大統領の実行力によるものと評価できる。インドネシア情報に関しては、また別の機会に詳述したいと思う。